

東日本大震災から6年 ～当時を振り返る機会に～



震災当時の宮城県名取市

東日本大震災から6年目の3月11日を迎えました。今年もメディアによる特別番組や特集記事が生まれ、被災地の現状を伝えるとともに当時のことを振り返らせてくれます。当時、にかほ市においては大きな被害は確認されませんでした。海と山に囲まれ豊かな自然に恵まれたにかほ市は、あらゆる自然災害が想定される環境にあると言えます。今回、震災当時、支援活動に関わった方々へ取材し、被災地での活動の一部を取り上げます。



震災当時の避難所の様子



震災当時の宮城県南三陸町

3人の体験から 当時を振り返る

東日本大震災発生後、にかほ市でも多くの市民がボランティア活動・支援物資・義援金・震災チャリティーなどにより被災地の一日でも早い復興を願い尽力しました。『広報にかほ』では、その一部を第136号（平成23年5月15日）で「被災地からのレポート」として紹介しています。

今回の特集では、東日本大震災から6年、当時を振り返る機会として、新たに3人の方から手記などをもとに被災地での支援活動などを語っていただきます。当時の被災地の惨状が語られ、あらためて震災直後の様子を知る事ができました。3人は、支援の経緯や方法は違いますが、語られた中には「地域のコミュニティの大切さ」が共通してあります。

6年経った今も、真の復興へは長い道のりですが、取材を通じて、あらためて災害時における地域社会での人と人の繋がり大切さを感じました。

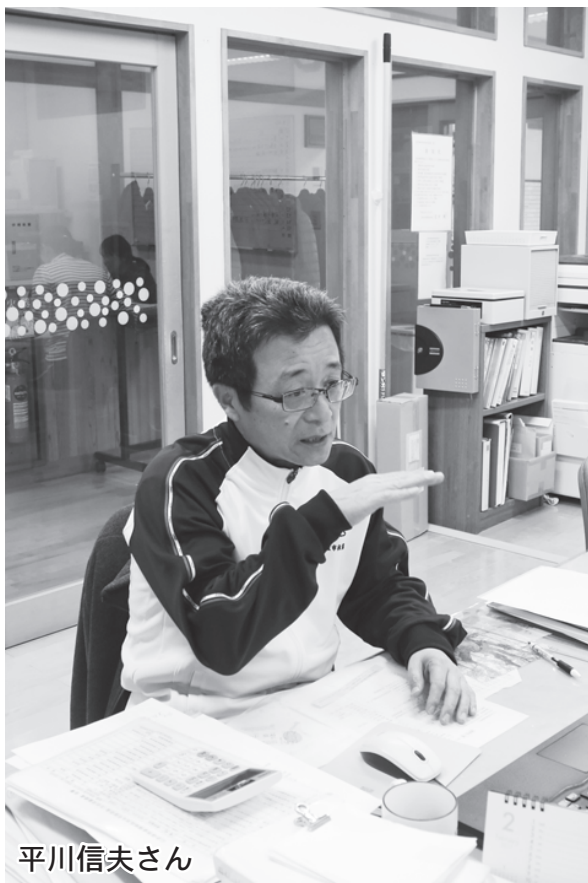
インタビュー① 手話通訳者として石巻市と名取市で支援活動を行う

平川信夫さん（にかほ市社会福祉協議会勤務／平沢在住）

宮城県聴覚障がい者支援対策本部などからの派遣要請を受けて、手話通訳者として石巻市と名取市で支援活動を行いました。

- ◇派遣先および派遣期間
 - ①石巻市 平成23年3月30日～4月5日
 - ②名取市 平成23年4月17日～4月23日

◇派遣の経緯について
震源に近い宮城県では被災者の中に聴覚障がい者も多く含まれ、手話通訳や文字による情報保障の体制作りが必要になりました。



平川信夫さん

◇支援内容について

はじめに支援要請を受けた石巻市では、震災から2週間以上が経過した時点でも、対策本部である市役所が避難所にもなっていたことから各階に助けを求めた人で溢れていました。こうした混雑した状況の中では、どうしても聴覚障がい者に対する支援の遅れが感じられました。3月30日から5月13日までの期間、宮城県外から私を含め6人の手話通訳者が石巻市に派遣されました。真っ先に行ったのは、被災した聴覚障がい者支援のための相談窓口の開設。その後、安否確認や市内各所の避難所を巡回し連絡事項の伝達支援などをしていました。また、聴覚障がい者宅などを訪問し被災状況の聞き取りなどもしていました。

◇被災地支援で感じたこと

私が派遣された両市では、地震の揺れによる家屋などの倒壊被害以上に、大津波の直撃による被害が甚大でした。大津波到達までの時間が短かった事などにより、両市で死亡が確認された8人の聴覚障がい者は全員

津波の犠牲になったと言われています。生き残った聴覚障がい者の「大津波が来るのが分かんかった」という声からも逃げ遅れたものと思われ。情報として頼みのテレビが見れないなか、他の媒体による情報が必要だったと思います。こうしたことから、にかほ市でも『緊急通報システム』の整備が進められ、対象者は限られるかもしれませんが、情報障がい者にならない基盤作りが進められているのだと感じました。

そして、何より感じたのは、地域の「人と人の繋がり」の大切さです。地域コミュニティの中で、繋がり強い地域では、聴覚障がい者を含む要配慮者（※）と一緒に助けられたと聞いています。また、こういった地域の方々が集まった避難所では助け合い支え合う姿がみられたと言われています。普段から人と人の繋がり震災時の大きな力になる事を感じました。

※高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する方